

◆【海員随想】BISKRA号航海記(22)③ 新木繁雄

7月26日 メッシーナ海峡通過

午後1時、イタリアとシチリア島の間のメッシーナ海峡に入った。海峡入り口で本船と、コンテナ船2隻の先手争いになり、本船が最も有利な位置を確保した。本船がトップに立ったことで、コンテナ船はやむなくスピードを落とし、後ろについた。こういうところに船長の性格が表れる。船長には白人としてのプライドがあり、人の後ろにつくことは我慢できないらしい。

スエズ通過以来、機関室下段へ行くと排気ガスのおいがきつく、息が詰まりそうになる。今日は徹底的に原因をつかもうと、床プレートの下へもぐって調べた。排気エコノマイザー入り口排気だまりからビルジヘッドレンを導いているパイプのウォーターシールに水が入っておらず、主機燃焼ガスが吹き抜けている。水を張ったらガスの吹き抜けが止まり、におわなくなった。

7月27日

このまま行けば明朝フランスの地中海側の港セツト(セテ)に着く。税関に提出する書類に必要事項を書き込み、ボンド品(税抜きウイスキーとタバコ)をシールストアーに運んだ。

地中海の7月は、日本と同じで夏真っ盛り、太陽がジリジリ照りつける。ヨーロッパ人は太陽に当たる時間が少ない分、夏になると食欲に日光浴をする。船長も機関長もボンドリムベッドをデッキに持ち出し、この暑い中で体を焼いている。彼らに言わせると、夏、体を焼いておくと冬になっても風邪をひかないそうだ。あまり効果はないと思うけど。それより皮膚がんになる可能性の方が高い。

昨日、部屋で魚のフライを作っていたら、船中においが回り、船長から文句が来たので、今日は外へ出て作ることにした。スエズで釣った中くらいのアジを20尾フライにし、南蛮漬けにした。これは明日ユーゴスラビアから来る機関長の奥さん用。

夕食はムトン。あまり食欲をそそらない。生でもらってきて薄く切り、焼肉にした。こうすれば焼肉のたれ味で結構食べられる。

「海員だより」